札幌市民の願いを実現する政治

大雪と共生する200万都市さっぽろ

6年生社会科学習資料
「ともに生きる暮らしと政治」(4~5月)に対応

編集:令和6年度 札幌雪学習プロジェクト委員　令和6年度現在

●神林 裕子:札幌国際大学短期大学部 幼児教育保育学科　准教授　●朝倉 一民:札幌国際大学 教務部全学共通教育(基盤教育部) 教授
●多田 公洋:札幌市立福井野小学校　教諭　●福本 勇太:札幌市立義務教育学校福移学園　教諭　●栗原 聡太郎:札幌市立宮の森小学校　教諭
●坂本 亜姫奈:札幌市立伏見小学校　教諭　●高田 雄平:北海道教育大学附属札幌小学校　教諭　●佐々木 啓輔:札幌市立日新小学校　教諭
●西森 美紀:札幌市立八軒西小学校　教諭　●谷藤 歩:札幌市立富丘小学校　教務主任　●長谷川 美雪:札幌市立緑丘小学校　教諭
●種谷 富茂華:札幌市立藤の沢小学校　教諭　●金吉 柾弥:札幌市立美しが丘小学校　教諭
●笹崎 雅稔:札幌市中央区土木部維持管理課 冬みち地域連携担当係長　●大久保 達郎:札幌市清田区土木部維持管理課 冬みち地域連携担当係長
●山内 翔太:札幌市西区土木部維持管理課 冬みち地域連携担当係長
●新井　拓:札幌市教育委員会 学校教育部 教育課程担当課　指導主事
●新保 元康:認定NPO法人 ほっかいどう学推進フォーラム　理事長　●菅野 光明:合同会社LTS　代表
●千葉 敏雄:札幌市立新琴似中学校　校長　●小林 弘明:札幌市立厚別南中学校　教諭

発行:札幌市建設局土木部雪対策室　令和7年4月発行

〒060-8611　札幌市中央区北1条西2丁目　Tel:011-211-2662

SAPPORO　さっぽろ市 01-K03-25-238

雪学習HP

1時間目

大雪の大都市 さっぽろ

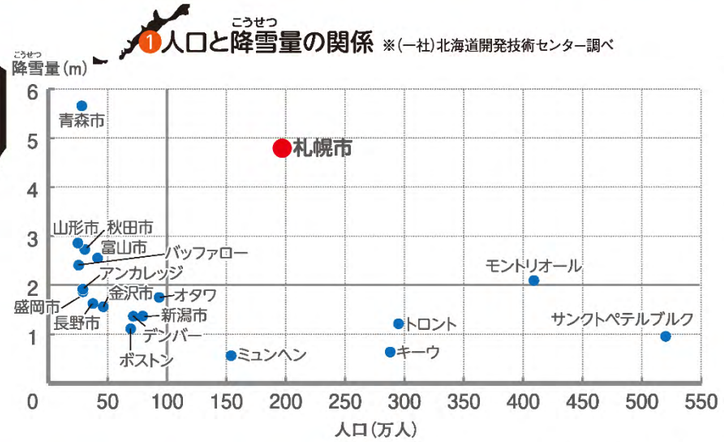
雪国さっぽろの暮らし　北海道札幌市は、197万人の人々が住む街で日本で5番目に人口が多い都市です。しかし、そんな札幌市では過去30年ほどの平均で年間5m近くもの雪が降ります。人口と降雪量の関係をグラフに表すと❶、札幌市は世界的にもめずらしい大雪の大都市ということがわかります。

こんなに雪が降るから、困る市民がたくさんいそうだよ

写真左：雪が降り積もる札幌市の様子
写真下：道路がツルツルに凍る様子

降雪量が多い都市は人口が少ないのに、どうして札幌市はこんなに人が住んでいるんだろう？わたしだったら、住めないかも

❶人口と降雪量の関係 ※(一社)北海道開発技術センター調べ

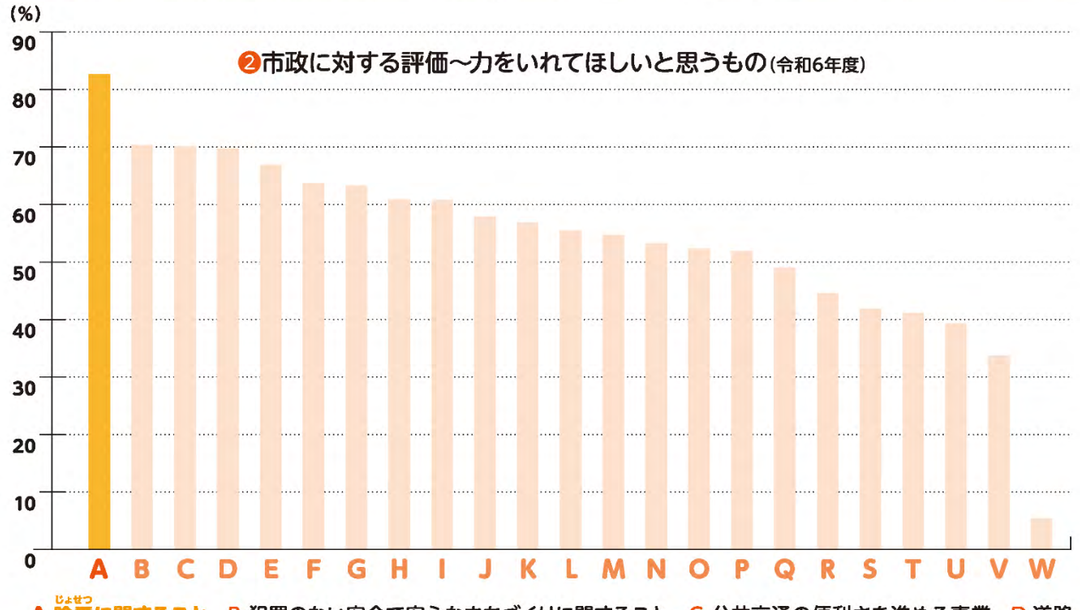


札幌市がこれだけ大都市に成長したのには、住民の願いをかなえながら政治を行ってきた経緯があります。どんな願いを実現してきたのでしょうか。

1時間目のポイント

札幌市がどのような環境の街で、市民はどのような暮らしをしているのか考え、学習問題をたてよう。

雪国さっぽろ市民の願い　下のグラフは札幌市の「市政に対する評価～力をいれてほしいと思うもの」❷です。このグラフから札幌市の市民はどのような願いをもっていることがわかるでしょうか。



A.除雪に関すること B.犯罪のない安全で安心なまちづくりに関すること C.公共交通の便利さを進める事業 D.道路の整備・維持管理に関すること E.地震・火災・水害などの防災対策 F.高齢者福祉に関すること G.交通安全対策に関すること H.産業や経済の振興、雇用の推進に関すること I.健康づくり、医療、衛生の事業 J.障がい者福祉に関すること K.ごみや資源回収のこと L.子どもの教育に関する事業 M.住宅・まちづくりに関すること N.母子及び父子・児童福祉に関すること O.公園や緑地など「みどり」の事業 P.市民への情報提供や相談に関する事業 Q.環境保全(公害)に関すること R.河川・湖沼などの整備に関すること S.生涯学習などに関する事業 T.文化芸術の振興に関する事業 U.スポーツ・レクリエーションの事業 V.国際化推進に関すること W.無回答

※各項目に対して「力をいれてほしいと思う(「そう思う」「ある程度そう思う」の合計)」

やっぱり、除雪に関することが1番多いね。札幌市はこの願いをどうやって実現しているのかな？

その他にもたくさんの願いがあるんだね。文化やスポーツ、国際化に関しては、他に比べると満足しているのかな？

札幌市の市民の願いを実現するためにはどのような人々がどのような取り組みを行っているのでしょうか。

学習問題

札幌市は市民の願いを実現するために、どのような取り組みを行ってきたのでしょうか？

市民意識調査

2時間目

雪を克服する市の取り組み

2時間目のポイント

札幌市が行っている雪対策がどのように計画されどのように行われるのかを調べて考えよう。

市役所のはたらき　札幌市は、一晩で大量の雪が降ることもあり、雪対策が滞ると生活に支障が起きてしまいます。そのため、札幌市民の願いの第１位は「除雪に関すること」で、ほぼ４０年間続いています。札幌市は市民の願いを実現するために道路の除排雪に力を入れています。

写真上：夜間の除雪の様子　写真下：雪たい積場

排雪の様子

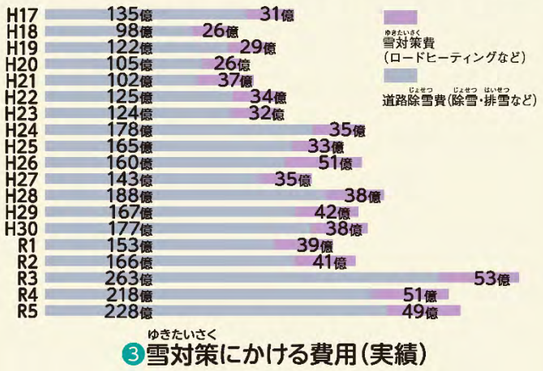
除雪と排雪は違うようだよ

排雪してトラックに積んだ雪はどこにもっていくのかな？

札幌市役所建設局雪対策室職員さんの話

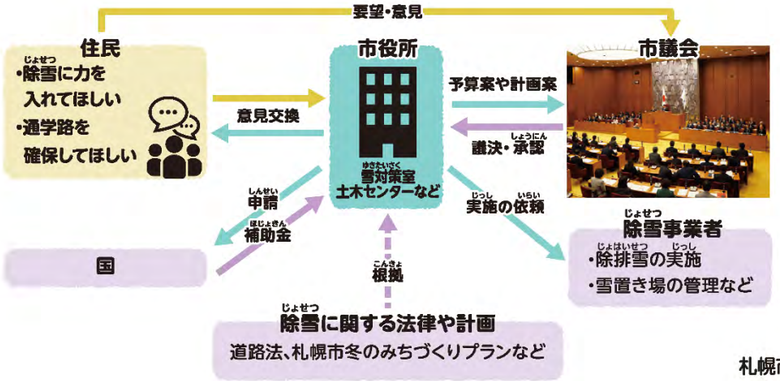
札幌市では、道路の積雪状況や気象状況から判断して除雪を行っています。積雪が10cmを超えて、通行に支障が出そうなときに、札幌市内の約5,450kmの道路を対象に除雪を行います。除雪作業は深夜に行われるので、除雪車を運転し、作業する人たちは夜通しで仕事をします。

降雪が続き、除雪が繰り返されると道路脇に雪山がたまってきます。この雪をダンプトラックに積み込み、雪たい積場に運ぶことを「排雪」といいます。排雪作業は時間も人員もかかり、費用は除雪の80倍にもなります。雪たい積場は、毎年、市内に80箇所程度確保されますが、維持費や排水、騒音、場所の確保など問題もあります。札幌市が雪対策にかける費用❸は、近年では200億円を超え、年々増えている傾向にあります。



❸雪対策にかける費用（実績）

雪対策費が決まるまで　市役所では、国の法律に基づき、市民の冬の生活に関わる様々な人々の願いを聞きながら、市の目標や計画にそって、雪対策費を決定します。雪対策のために使う費用は市民から集めた税金が使われます。また、国からの補助金も使われています。ですから、これらのお金をどのようにまちづくりに活用していくかを決めるのは市役所や市議会の大切な役割です。



札幌市冬のみちづくりプラン 2018
札幌市のこの先10年間の雪対策の内容をとりまとめたものです

札幌市役所の組織

- 市長・副市長
- 危機管理局
- デジタル戦略推進局
- まちづくり政策局
- 市民文化局
- 保健福祉局
- 経済観光局
- 環境局
- 建設局
- 都市局
- 水道局
- 消防局
- 教育委員会
- 人事委員会
- 農業委員会
- オンブズマン
- 会計室
- 総務局
- 財政局
- スポーツ局
- 子ども未来局
- 下水道河川局
- 交通局
- 病院局
- 区役所
- 選挙管理委員会
- 監査事務局
- 議会事務局
- 固定資産評価審査委員会
- その他

市民の要望が出てから、計画案ができあがるまでに、時間がかからない方がいいね

市役所は計画案を作ったり、除雪費用を計算したりする仕事をしているね。また、その計画案を認めるかどうかは、議会の仕事なんだね

実際に除雪をする業者も市役所が選ぶんだね　お金を支払うんだから、公正な仕事をしないとね

調べよう

★札幌市はどのように雪を克服しているのか？
★市役所はどのようにまちづくりを行っているのか？

3時間目

雪を生かす市の取り組み

3時間目のポイント　札幌市が行っている「さっぽろ雪まつり」がどのように計画されどのように行われるのかを調べて考えよう

さっぽろ雪まつりの取り組み　雪まつりは、1950年に地元の中・高校生が6つの雪像を大通公園に設置したことをきっかけに始まりました。大変好評だったため、翌年からは札幌市の年間行事として位置づけられました。その後、自衛隊が参加して大規模な雪像づくりを行ったり、テレビや新聞で紹介されるようになったりし、「札幌の雪まつり」から「世界の雪まつり」へと発展してきました。現在は、「大通会場」④、「すすきの会場」⑤、「つどーむ会場」⑥の3会場で開かれており、世界中の多くの人々に愛されるおまつりへと成長を続けています。

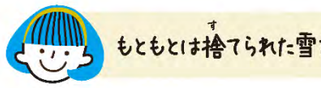
④雪まつり大通会場 ※大雪像・ヘルシンキ大雪像©HBC北海道放送2019

⑤雪まつりすすきの会場

⑥雪まつりつどーむ会場

第62回さっぽろ雪まつり（大通会場）

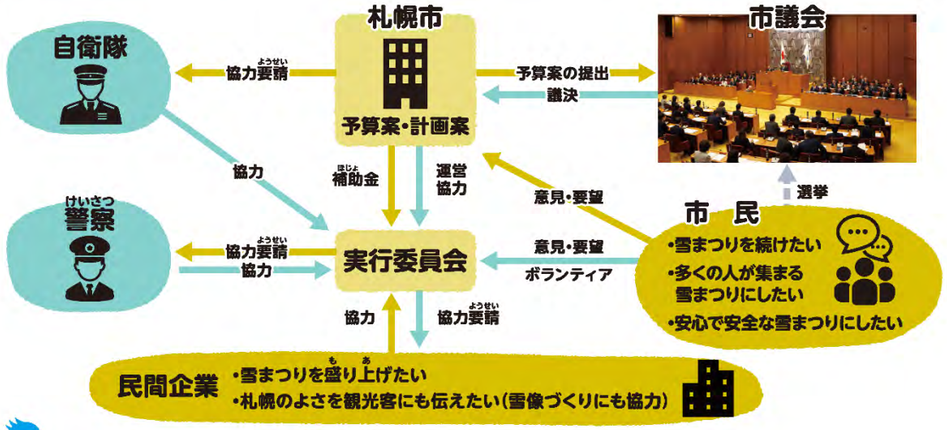
第63回さっぽろ雪まつり（大通会場）



市民の願いを実現する雪まつり　現在のさっぽろ雪まつりは市が4億円以上の補助金を支払い、「雪まつり実行委員会」に運営を任せています。しかし取り組みの内容や予算計画は市の「経済観光局」も一緒に考えて作成しています。雪像をつくるには多くのお金が必要ですが、同時に市民の願いを実現することにもつながっています。どんな願いが実現しているでしょうか？

雪まつりは、1950年から現在にいたるまで、会場を増やしたり開催期間をのばしたりしながら、新たな雪まつりの創出に向けて進化し続けています。1974年以降、ヨーロッパやアジアなど様々な外国地域の雪像が制作され、国際色あふれるイベントとして発展しています。

市議会のはたらき　市議会では、市役所が検討した雪まつりの計画や費用など、市にかかわるさまざまな議題について話し合います。選挙で選ばれた市議会議員が、市民の代表として、市役所でつくられた計画書や予算案が、札幌市民にとって本当に役立つものなのかどうか、市長などに質問して話し合い、必要に応じて修正し、最後に多数決で決定します。他にも、市の法律にあたる条例の制定や改正も行います。



札幌市役所経済観光局観光・MICE推進部職員さんの話

雪まつりを運営する補助金は市民の皆様の税金です。したがって市民の願いを実現できるように慎重に計画案、予算案をまとめます。おかげさまでさっぽろ雪まつりには毎年200万人以上の人が訪れ、にぎわいます。最近は外国人観光客も増え、札幌市が世界的にも有名になり多くの人が雪に親しんでいます。さらに期間中は、市内のお店や交通、ホテルなども忙しくなり、経済が活性化します。経済効果※は670億円にもなります。さっぽろ雪まつりは、多くの市民ボランティア⑦の参加で支えられています。これからも市民といっしょに作り上げていきたいと思います。

⑦市民ボランティア
さっぽろ雪まつりでは、多くの市民ボランティアが活やくしています。雪像作りや、迷子の対応、会場案内などを行っています。

★札幌市はどのように雪を生かしているのか？
★雪まつりにはどのような願いがこめられているのか？

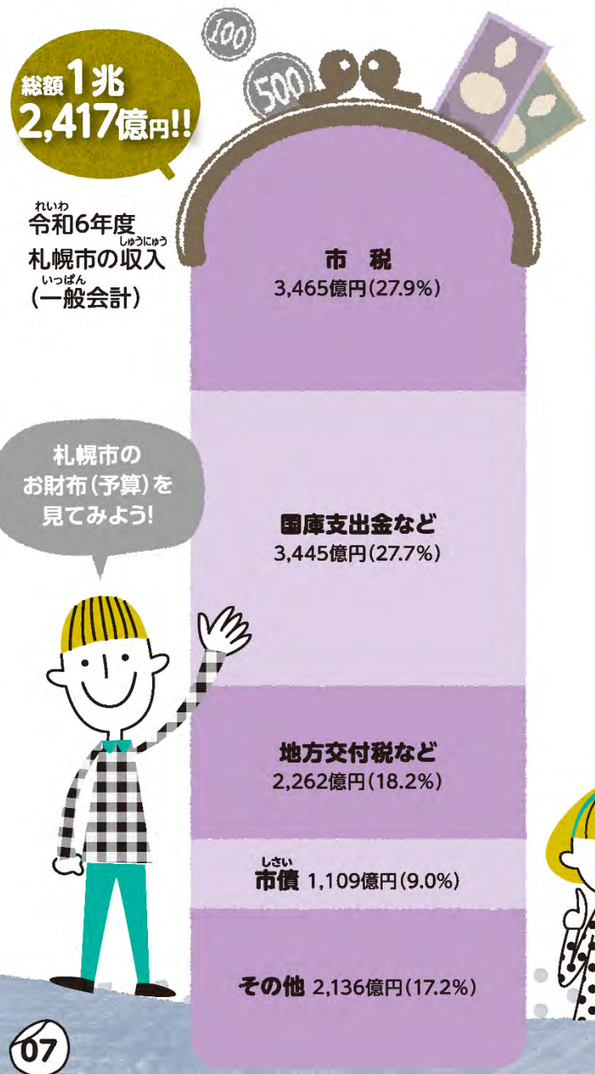
さっぽろ雪まつり

※経済効果とは？　雪まつりなどのイベントでお金の使いみちがどれくらい増えるかを予想したものを「経済効果」といいます。

4時間目

税金のはたらき

税金のはたらき　札幌市の雪対策や雪まつりの事業を行うには、多くのお金が必要になります。市は住民や会社などから税金を集め、その税金を使って、多くの人が必要とする公共的な事業を行っています。税金の使い道は、市民の代表が集まる市議会の話し合いによって決められます。



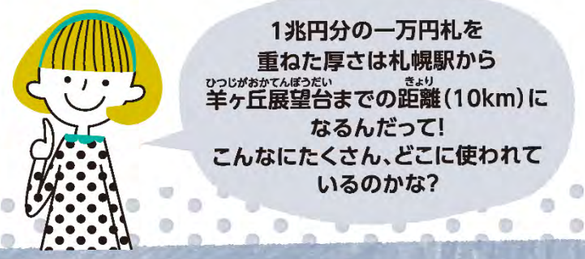
税金って?

買いものや住民・会社の資産、いろいろな活動で得た収入に対してかけられます。国や市で行う仕事の多くは、税金で行われています。また、わたしたちには、納税の義務があります。

札幌市では市の収入のおよそ三分の一は市民の税金です。市がさまざまな事業に使うお金には住民や会社が市に納めた税金のほかに、国や道の予算の中から出される補助金などもあります。

一般会計って?

「一般会計」には、福祉や教育、道路整備など、行政の基本的な事業を行うためのお金が予算として計上されています。予算とは、1年の歳入(収入)と歳出(支出)の計画を示したものです。「一般会計」のほかには、国民健康保険や介護保険のように保険料を徴収している事業など「一般会計」と区別する必要がある「特別会計」と、地下鉄や水道など民間企業のように利用料金などの収益で運営している事業の「企業会計」があります。



4時間目のポイント

札幌市の税金がどのようにまちづくりに使われているのかを調べて考えよう

税金は、市町村や年度によって、その額や使い道はちがいますが、わたしたちの暮らしや社会を支える大切なもので、誰もがそれによるサービスを受けることが出来ます。

281億円 除雪費
市民1人あたり1年間で
1万4千円
★除排雪作業
★パートナーシップ排雪など
⇒詳しくは10ページへ

796億円 子ども・子育て支援費
市民1人あたり1年間で
4万円
★保育所、認定こども園などの運営、整備
★子育てサロン

464億円 ごみ処理費
市民1人あたり1年間で
2万4千円
★ごみの収集、運搬
★清掃工場の管理・運営

203億円 消防費
市民1人あたり1年間で
1万円
★災害時の消火活動、人命救助
★救急業務
★火災の予防に関する活動

255億円 学校整備費
市民1人あたり1年間で
1万3千円
★校舎の建て替えや改修

131億円 高齢福祉費
市民1人あたり1年間で
7千円
★高齢者への交通費助成
★老人福祉施設の運営・整備

105億円 公園関係費
市民1人あたり1年間で
5千円
★公園の造成、再整備、維持・管理

24億円 観光関係費
市民1人あたり1年間で
1千円
★さっぽろ雪まつり関連事業
★MICE関連事業(国際会議の招致など)
★海外からの観光客誘致

まとめ
★札幌市の税金がどのように使われているのか
★あなたが市長だったらどのように税金を使うか発表しよう

読みもの

札幌市民の願いを実現する政治

札幌市が取り組んでいる雪対策の効率化

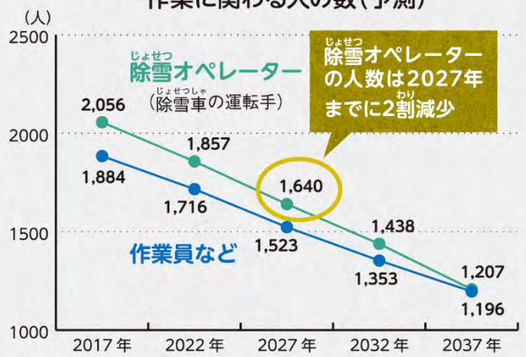
除雪や排雪には多くの人の力やお金が必要です。限りある人やお金の中でこれからも冬の暮らしを支えていくためには効率化が重要です。このため札幌市では、最新技術も取り入れながら様々な対策や検討を進めています。

人もお金も足りなくなる？

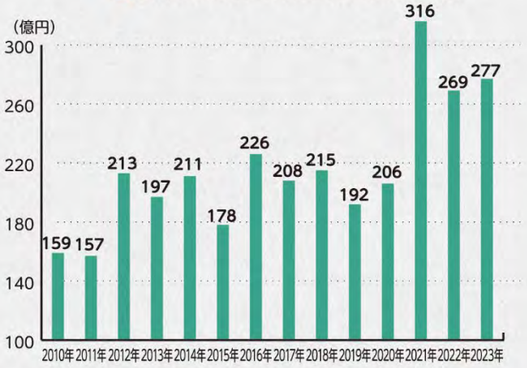
人口減少や高齢化の進行により、除雪オペレーター（除雪車の運転手）は、2017年から2027年の間に2割ほど減少すると予測されています⑧。また、近年は除排雪を行うための人件費や機械を使うための費用（機械損料といいます）が建設業全体で増え続けています⑨。

このため、除雪車の運転手などの作業に関わる人や、十分な除排雪を行うためのお金が、将来には不足してしまうことが懸念されており、作業を効率化できるような工夫が必要です。

⑧札幌市における除雪車の運転手や、作業に関わる人の数（予測）



⑨除排雪を行うための費用（実績）



雪対策の効率化に向けて

除雪機械にGPS※を取り付けたり、インターネット回線とつなげたりすることで、これまで手作業の部分が多かった運転状況の記録作成を自動化・電子化したり、排雪作業時の走行ルートを最適に選定し運転距離を減らしたりするような効率化に向けて検討を行っています。

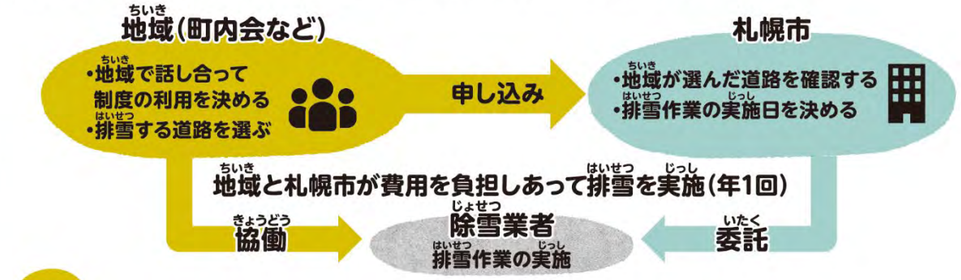
また、これまでは周りの安全を確認する助手も一緒に乗ることが必要だった除雪機械に、バックカメラや人を感知するセンサーを取り付けることで1人乗りでも安全に作業できる除雪機械を導入し、運転手不足へ対応できるように実験や検証を進めています。

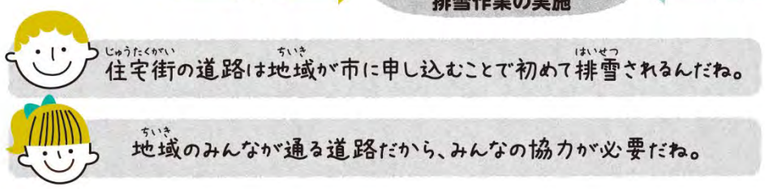
※GPSとは？
「全地球測位システム(Global Positioning System)」のことです。人工衛星を使い、自分が今、地球上のどこにいるかを測定するシステムです。

住宅街の道路の排雪を行う パートナーシップ排雪制度

札幌市では、バスやたくさんの車が走る広い道路など※に限り除雪業者が排雪作業を行っています。そのため、住宅街の中にある狭い道路については、地域からの申請があった場合に地域と札幌市との協働により排雪作業に取り組むこととしています。この制度を「パートナーシップ排雪制度」と言います。

※住宅街の道路であっても、通学路の場合は排雪作業を実施している路線があります





札幌 ゆきだるマンプロジェクト!!

ゆきだるマンからのお願い
冬のルールを守ろう！

道路に雪を出したり、路上駐車をしたり、夜のうちにごみを出したりすると、除雪作業の妨げとなり、作業がとても非効率になってしまいます。冬のルールを守ることは、みなさんにもできる雪対策の効率化です。お家の方と一緒にぜひ取り組んでください！